

式辞

何度も押し寄せてきた寒波をしのぎ、ようやく春の到来と旅立ちの予感を思わせる柔らかな風が、校庭を吹き抜けていくようになりました。

本日は、滋賀県議会議員の皆様をはじめ、学校評価委員の皆様、学園関係者の皆様のご臨席を賜り、また保護者の皆様にご出席いただき、ここに令和6年度卒業証書授与式を執り行うことができますことは、私ども教職員にとりまして、大きな喜びでございます。高段からではございますが、皆様方にお礼を申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。ただ今の呼名点呼を、それぞれ万感の思いで受け止められたのではないかと拝察いたします。これまでのご努力に対し深く敬意を表しますとともに、三年間本校の教育に多大なご支援とご協力を賜りましたことにつきまして改めて厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年間にわたる努力が実を結び、ここに晴れて卒業の日を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。

3年前の入学式で、私は皆さんに2つのお話をしました。一つは、勉強というのは、目の前にある現実を客観的に受け止め、自分に何が出来るかということを実践になって考え実践していくことに、その意味があるということ。もう一つは命を大切に隣にいる人に優しさをもちながら、困難なことがあっても、「あきらめない心」をもって自分の最善を尽くしてやりきりましょう、ということでした。卒業の時を迎え、今一度振り返ってみてください。もちろん勉強はまだ続きます。進む道の如何に関わらず、絶えず社会を広く見渡し、社会的存在として、これからの人生を生き抜くための勉強を続けてください。そのとき、「あなた」という人間はかけがえのない存在であること、それを強く思ってください。それが他者への優しさにつながり、自身の最善を尽くす行為へと導くのだと信じています。

21世紀もその4分の1が過ぎていきます。皆さんは「Z世代」のただ中に位置づけられています。デジタル技術が日常生活に深く深く浸透した環境下にいる世代です。その恩恵は十分享受し、さらにデジタルのもつ合理的側面は大いに役立ててください。しかし一方で、この落とし穴は「想像力の欠如につながりかねない」という点です。私たちの日常を振り返ったとき、「ちょっとでも想像力を働かすことができれば、そんなことにはならなかった」と思える出来事が本当に多くあります。どんなに優れたAI機能も、なんでもそつなくこなすチャットGPTも、心をもった人としての想像力を超えることは出来ないと思います。「その先を思いやる」という想像力が今こそ大切なものだということを誰しもが肝に銘じなければならぬのではないのでしょうか。

3学期の始業式には、「一読十笑百吸千字万歩」という話をしました。どれも些細な日常です。しかし、これらの所作は、自分が主体になって自身の存在を認識する貴重な取り組みだと思っています。そしてそれが人の存在を慈しむ気持ちを持ち続けることにつながり、その先を想像した言動に結びついていくはずです。

今年は戦後80年の節目を迎えます。歴史としてしか知ることのない80年前ですが、現在も紛争の惨禍は収まる気配がありません。この痛ましい現実からも、私たちは想像力を大切にしたい言動が求められるに違いありません。

ここで、もう一度、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。この卒業式に合わせて発行いただきましたPT通信の「保護者メッセージ」の一つひとつに目を通しました。間違いなく、この3年間はお子様と苦楽をともにされたかけがえのない時間だったのだと深く感じ入りました。そして大きな支えとなっていたいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

高校卒業を境に、社会での立ち位置は大きく変わっていきます。十八歳成人もある意味で社会に定着してきました。そこには常に「責任」「自己判断」がついて回ります。しかしそれらは、十分な依存先があってこそ果たしていけるものでもあります。「自立」をはじめとする成長は、いかに適切な依存先を多く持っているかという対処とともにあります。このことは、折に触れて本校進路指導部からお話ししてきました。今後もご家庭が更なる飛躍のための貴重な依存先であり続けていただけたらよいようにと、お願い申し上げます。

卒業生のみなさん、あなた方は、令和4年度から始まった、新しい学習指導要領の一期生でした。十分な時間を掛けて練り上げたつもりでしたが、実際それを実践していく上で不安もありました。しかしそんな心配は無用でした。時に教室の中で、また時には地域に積極的に出かけて取り組んだ「探究」は後輩たちへ素晴らしい足跡を残してくれました。特に大津市を中心

とした地域とのつながりは様々な形で地域交流を促進するものとなっています。ありがとうございます。

いよいよ次なる舞台があなた方の前にあります。これまでの学びに何一つ無駄はありません。良かったことだけではなく、うまくいかなかったことも、あなたの貴重な財産です。皆さんは、きょうを区切りに、前だけを向いて進んでください。次の一步さえうまくいくかどうかなど、わからないのが人生です。ですから、そんなことより、今の自分を大切に、自分のペースで生きていってください。何より命を大切に健康に留意され、「私らしく」素敵な道を進まれることを期待し、皆さんの前途に幸多かれと祈念し、『式辞』といたします。

令和七年三月一日

学校法人純美禮学園
滋賀短期大学附属高等学校長 小林昌彦